

ただいま発掘中！

巢鴨町家跡の発掘調査

第3号 2013年4月25日

前半が終わり、現在は敷地奥側の調査を実施しています。今回は江戸時代前期後半～中期（320～220年前）の調査成果です。

この時期の状況は、前代の後期（第2号掲載）とはガラリと変わります。多くの柱穴ちゅうけつが見つかり、掘立柱構造ほったてばしらの何らかの建築物が存在したことが判明しました。柱穴の直径規模には違いがあります。これは一度にたくさんの柱が存在していたわけではなく、100年もの年月の中で、幾度にも柱が替えられた上、連続と建物が建っていた結果とみることができます。

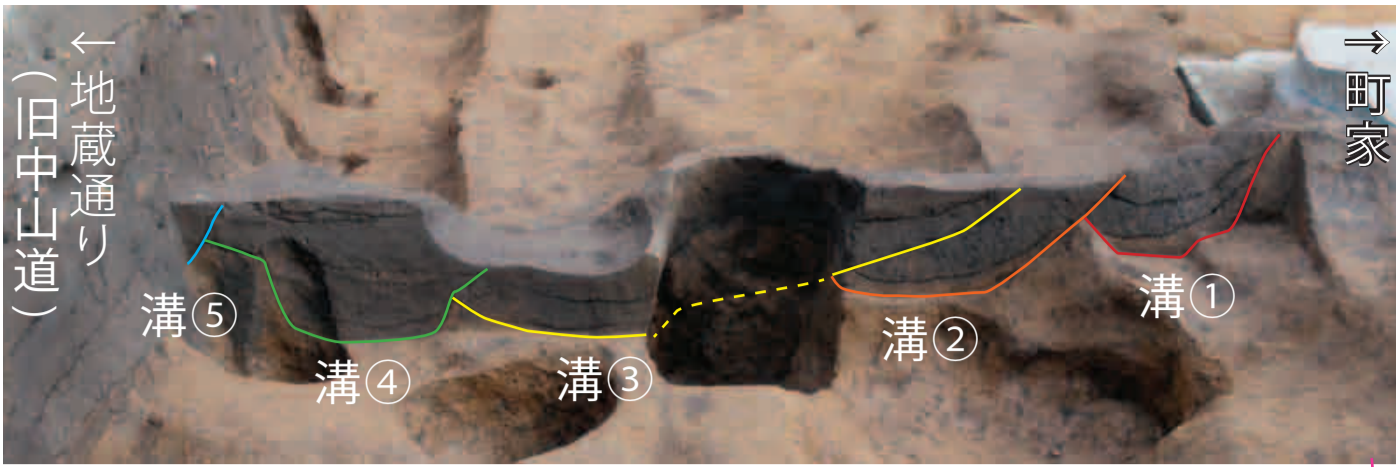
通り側からは、複数の溝（①～⑤）が見つかりました。溝には新旧があり、新しくなるにつれて道路側へ移っていきます。江戸時代でも古い段階の溝であり、地蔵通りに平行するため旧中山道なかせんどうの側溝そっこうと推定されます。側溝とした場合、幅員ふくいんあるいは位置は現在の道路のものとズレていた可能性があります。これらの溝は、旧中山道の形成や道筋の変遷、町家の場所を考える上では重要な発見と言えます。この他では、ゴミ捨て場として利用された場所や、便所と思われる施設が見つかりました。

建物の建替えの多さと比例するように、幅広い年代の陶磁器が発見されています。後期で多かった植木鉢はほとんど見られず、碗・皿・鉢すりばちや播鉢とっくり・徳利の比率が高くなり、喫煙具きつえんぐ・玩具がんぐなども出土しています。こうした調査成果から、町家に暮らした人びとの生活の様子が現在に蘇るのです。

※この発掘調査は、タカセ洋菓子株式会社のご協力を得て行っております。

発掘調査地：豊島区巢鴨 3-20-16〔住居表示〕

特定非営利活動法人
としま遺跡調査会



江戸時代前期の溝の造り替え ①が最も古い溝、⑤が新しい溝です。左の道路側へ溝が徐々に移っています。



整地層の断面

盛土や削平を繰り返し、または降灰によって現在の地面が形成されています。



江戸時代前期後半～中期 (220～320年前) の調査 南東から撮影
小さな穴は柱穴で何らかの建築物が存在したようです。ごみ捨て穴からは数多くの日用品が出土しています。旧中山道に平行して走る溝 (①～⑤) が道路側で見つかりました。

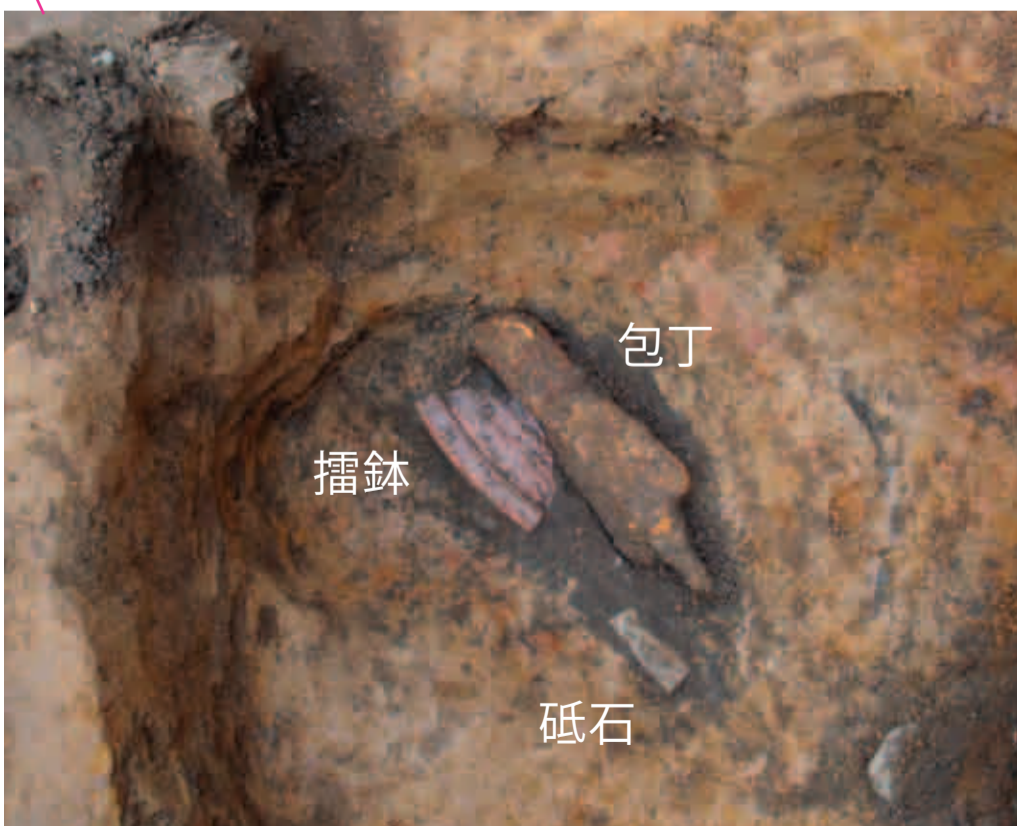


← 髪油壺

↓ 煙管の一部
たばこの葉を詰め
め燃烧させる



↑ 碇石



約 300 年前の調理具が出土した状況
飲食器とともに包丁、播鉢、砥石が出土。
すりばち といし

出土した陶磁器類 (元禄～正徳頃 [約 300 年前])
飲食器や調理具、喫煙具、釘等が出土

